

栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	山形県
推進地域名 (再委託先)	寒河江市

1 事業推進の体制

実践中心校	寒河江市内小中学校（13校）
協力校	寒河江市内幼児教育・保育機関（幼稚園・保育所等）
関係機関	寒河江市子育て推進課

2 各都道府県教育委員会の取組

(1) 食育の方針（取組内容）

- ・ 学校における食育推進の基本方針及び評価の指数を策定するため、「学校における食育推進委員会」を設置
- ・ 市町村教育委員会担当者を対象に研修会を実施し、県全体の食育指導体制を充実
- ・ 当該成果の県全体への普及啓発・情報発信及び各市町村への指導・助言

(2) 実践推進地域への指導・支援内容等

- ・ 寒河江市食育推進検討委員会において、市教育委員会及び学校等の取組への指導・助言
- ・ 中学生対象のヘモグロビン検査実施
- ・ 推進地域の事業に関する訪問による指導助言
- ・ 実践推進地域の取組を普及啓発・情報発信

3 具体的な取組等について

テーマ1	幼稚園・保育所・学校と家庭・地域との連携による食に関する指導の充実 ～ 栄養バランスのとれた朝食を摂取する習慣づくりをめざして ～	
評価指標	① 朝食摂取率（毎日朝食を摂っている人の割合） ② ヘモグロビン測定値	
効果	① 朝食摂取率（毎日朝食を摂っている人の割合） <ul style="list-style-type: none"> ・ 市目標値（市新第5次振興計画：平成27年までに95%） 平成21年：92.3% → 平成25年6月：94.6% → 平成25年12月：94.1% ・ 1回目、2回目ともに、毎日朝食を食べている児童生徒の割合は94%台であった。 ・ 「あまり食べていない」「全く食べていない」児童生徒数が減少している。 ・ ご飯（パン）とおかず／お汁を毎日しっかりと食べている児童生徒数が増加している。 ② ヘモグロビン測定値 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1回目測定結果と朝食摂取の状況についてのクロス集計結果を分析したところ、朝食を 	



「毎日食べている」生徒のほうが、ヘモグロビン測定値が「基準値以上」である割合が高い傾向にあった。

- 生徒に測定値を伝え、栄養指導もあわせて実施してきたことで、栄養バランスのとれた食事の大切さを認識し、自分の食生活に反映する姿も見られた。1回目測定時に基準値未満の生徒は33名であったが、2回目の測定では、そのうち16名が基準値内となっていた。

(取組状況)

① 朝食の摂取状況についてのアンケート調査の実施〔6月・12月〕

- 県が作成した食生活アンケートをもとに、朝食の栄養バランスが把握できる設問を設定したアンケートを作成し、市内小中学校すべての児童生徒（約3,600名）を対象として、年2回アンケート調査を実施した。
- 学級の児童・生徒の朝食摂取の状況等の集計を学級担任が行うことで、個々の朝食摂取状況を把握し、個別の指導や家庭への啓発活動につなげることができた。



② ヘモグロビン値測定の実施〔6～7月・12～1月〕

- 東海大学体育学部 小澤治夫研究室の協力を得て測定機器をお借りし、市内の中学校3校から各学年1学級、計9学級を抽出してヘモグロビン値測定を実施した。
- 客観的な数値を生徒に示し、栄養指導もあわせて行うことで、鉄分を上手に摂取する食事のメニューなど、栄養バランスのとれた食事の重要性を実感し、自分の食生活を見直すことにもつながった。
- 給食だよりの号外も発行し、市の測定結果の状況を知らせるとともに、数値が低かった生徒に対して、上手に鉄分を摂取できる工夫や、栄養バランスのとれた食事の大切さについて啓発を行った。



③ 生活リズム・朝食の大切さについての啓発

- 生活リズムや朝食（摂取・栄養バランス）に関する指導については、各学校で機会を捉えて指導をしている。一人一人にめあてを決めさせ、カードを活用して取り組ませたり、保健だよりで、児童生徒や保護者に生活リズムの確立や朝食摂取の大切さなどについて啓発を行ったりしてきた。
- 幼児教育・保育機関においても、幼児を対象に食育指導を行ったり、保育参観時の懇談会で話題として取り上げ、保護者に対する啓発を行ったりしている。

④ 食育に関する講演会・研修会の実施〔5月：教職員対象・12月：保護者・地域対象〕

《教職員向け講演会》

日 時：平成25年5月21日（火）午後2時30分～
 場 所：寒河江市立陵東中学校
 講 師：宮城学院女子大学 食品栄養学科 教授 平本 福子 氏
 演 題：「今、なぜ食育が大切なのか」
 参加者：市内全教職員、

- 市内幼児教育・保育機関の教職員・保育士
- 年度始めに、市内小中学校の全教職員に対して食育についての講演を実施した。講師の先生からは、食の自立に向けて、必要な知識と指導内容についてご指導いただき、組織的に食育を推進していくことを全教職員で確認した。
- また、幼児期から学童・思春期にかけての食育を共通理解のもとで推進していくために、市内すべての幼児教育・保育機関にも講演の案内を送付し、先生方にも参加していただいた。



《保護者・地域向け研修会》

日 時：平成25年12月14日（土）午後1時30分～

場 所：寒河江市中央公民館ホール

内 容：パネルディスカッションと講演

パネリスト

保護者代表

陵東中学校PTA母親委員長

長岡麻衣子氏

学校関係代表

高松小学校 栄養教諭

渡邊 浩美氏

幼児教育・保育機関代表

市子育て推進課 課長補佐

安達恵美子氏

地域代表

市食生活改善推進協議会長

佐藤 光子氏

コメンテーター・講師

管理栄養士・フードアナリスト

樋口 順子氏

- 12月には、保護者や地域の方々を対象にした食育研修会を実施し、朝食摂取を促すための情報交換の場を設定した。当日は、それぞれの立場を代表する方々に、「朝食」について日頃実践されていることなどについて話題提供をしていただき、朝食摂取率向上に向けた取組や望ましい朝食の内容について、参加者で学び合うことができた。



⑤ おすすめ朝食メニューレシピ・朝食啓発リーフレットの作成

《リーフレット「簡単！『朝ごはん』レシピ集」の作成》

- 9月に、市内の各小中学校の児童・生徒・保護者に対してチラシを配布し、「おすすめ朝食メニュー」を募集した。集まったレシピについて、栄養教諭や学校栄養職員が中心となって「忙しい朝にぴったりな、簡単で栄養バランスのとれるもの」7品のレシピを選定した。選んだレシピをもとに、実際に調理・試食を行った。その時に撮影した調理例の写真とレシピを掲載した「おすすめ朝食メニューリーフレット」を6,000部作成し、市内の幼児・児童・生徒のいる保護者に配布した。



《リーフレット「一日の生活は『朝ごはん』から」の作成》

- 朝食摂取率を向上につなげるために、東海大学の小澤治夫先生が提唱している「ライフマネジメント風車理論」や、各種調査と朝食摂取状況とのクロス集計結果を掲載し、朝食摂取の大切さを啓発するリーフレットを6,000部作成し、市内の幼児・児童・生徒のいる保護者に配布した。



⑥ 地元産の食材や伝統的な郷土料理などについての情報提供

- 毎月、郷土料理や特産物を味わうことをねらいとした週間を各学校の給食献立の中に設定し、地元産の食材や伝統的な郷土料理、季節に合わせた料理などを出すようにしている。その日の献立や食材等に関する「一口メモ」を通して、地元産の食材や伝統的な郷土料理等についての情報を児童生徒に伝えるようにしている。
- 給食だよりも、地元産の食材や伝統的な郷土料理等について掲載し、保護者に対しても積極的に情報を発信してきた。

テーマ2 学校における食に関する指導の充実
～ 効果的な栄養教諭のかかわり・活用について ～

評価指標

① 中学校給食の残食率

効果

① 中学校給食の残食率 …… 月ごとに集計している結果を比較して考察する。

- 春から夏にかけて学級ごとの残食量に差が見られたが、栄養指導、食材の生産や調理に携わる方々への感謝の気持ちを育む指導などを行ってきた結果、その差が少なくなり、全体としては徐々に減る傾向にある。

中学校	給食の残食率	朝食摂取率
6月	2.7%	92.1% (1,128人)
12月	1.0%	91.9% (1,129人)

(取組状況)

① 食に関する指導の計画的な実施

- 食に関する指導を計画的に実施していくために、作成している食育に関する全体計画や年間指導計画について、各分野・領域等に関連や家庭への連携等の視点から各学校で見直しを図り、食育の推進に努めてきた。
- 家庭と連携した食育がさらに推進されるように、食の指導に関する授業を参観する機会や、保護者が給食を試食する機会などを計画に位置づけ、各校で実践を進めてきた。

《食育授業研究会の実施》

- 各学校で栄養教諭・学校栄養職員・管理栄養士が食に関する指導を行っているが、資質のさらなる向上を図るために、今年度は学校をこえて互いの授業を参観し合う授業研究会を実施した。事後の話し合いも行い、よりよい食育指導の在り方について研修を深めた。



日時：平成25年12月3日（火）

内容：授業 学級活動「食べ物の名前とはたらきについて知ろう」

5校時（午後1時55分～2時40分）1年1組教室

授業者 寒河江市立柴橋小学校 今井千香子 教諭 安孫子光子 栄養教諭

事後研究会（午後3時10分～4時30分）会議室

授業についての話し合い

指導・助言 県教育庁スポーツ保健課 齊藤 るみ 指導主事

市教育委員会学校教育課 鈴木 雅寿 指導係長

《「さがえ食育の日」の取組》

- 本市では、毎月19日を「さがえ食育の日」と定めており、各学校においては学級担任等が日常的に食育を推進していく日として位置づけている。
- 今年度から、栄養教諭・学校栄養職員・管理栄養士が計画に基づいて作成した指導案と指導資料を、各学校に毎月送付している。各学校では、その資料を活用して、給食の時間など機会をとらえて児童生徒に指導を行っている。また、食生活アンケートの結果や給食だよりも活用しながら、朝食摂取率向上や栄養バランスの取れた朝食摂取に関する指導も行ってきた。

② 農業体験・栽培活動の積極的な実施

- 各小学校で、生活科や総合的な学習の時間等において、農業体験や栽培活動を積極的に取り入れ、実施してきた。その際に、学校の教職員だけでなく、地域で農業に携わっている方々などとも関わる機会を意図的に設定するようにした。生産者と一緒に活動を行うことを通して、生産者の思いや苦勞を感じ取る子どもの姿も見られた。また、栽培から収穫までの活動を通して行うことで、その食材への興味・関心を高めることができた。



③ 交流給食会や料理教室等の実施

- 中学校では、昨年度から生徒と地元生産者が一緒に給食を食べて交流する「顔の見える給食」を実施している。昨年度は陵西中学校で、今年度は1月15日に陵東中学校で交流給食を実施した。
- オードブル給食の日など、機会をとらえて、調理師さんと子どもたちが一緒に給食を食べる場を設け、毎日給食を作ってくださる調理師さんへ感謝の思いを伝える取組を行った小学校も数多く見られた。
- また、給食だよりも、食物を大切に作る心や食物の生産・調理に関わる人たちへの感謝の心を育むことをねらいとしたものを掲載し、勤勞感謝の日に合わせて発行した。



④ 「心を育む学校給食週間」の取組

- 平成25年度「心を育む学校給食週間」実施要項に基づき、市内すべての学校で実施期間を設定し、食は「いのち」を育む基本であることを意識付けることや、食に関わる人と食材に対する感謝の心や他人を思いやる心等、豊かな心を育むことをねらいとして実施した。
- 学校給食の時間等を活用して、「こころ」づくり（豊かな心の育成、社会性の涵養）・「からだ」づくり（身体の健康維持・増進）・「おこない」づくり（自己管理能力の育成）の3つの視点から取り組み、栄養教諭・学校栄養職員と給食主任・学級担任等が協力して指導にあたった。

⑤ 市教育研究所「食育に関する研修部会」との連携

- 本市の教育研究所では、研修部の中に「食育に関する研修部会」を位置づけている。「豊かな心といのちを育む食育の推進」をテーマに掲げており、希望する先生方が所属して、主体的に研修を行っている。
- 今年度は、教育研究所の運営方針に「食育推進事業と連携した食育の推進」を追加し、この事業との連携を明確にして研修を実施していただいた。



《研修の概要》

第1回研修会 日時：平成25年6月24日（月）午後2時～
場所：日東ベスト高松工場学校給食センター
内容：学校給食センター見学・説明

学校給食センター 小野 敬吉 所長

講話「学校給食指導で大切にしたいこと」

寒河江市立高松小学校 渡邊 浩美 栄養教諭

「食育推進事業の概要について」

市教育委員会学校教育課 川野 博子 管理栄養士

第2回研修会 日時：平成25年10月17日（木）午後2時～

場所：寒河江市立白岩小学校

内容：講話「地産地消から考える食育」

セントラルキッチン 旬彩料理味暦 佐藤 充 料理長
各学校の食育実践発表会及び情報交換

テーマ1～2に共通する取組

（取組状況）

① 寒河江市小中学校食育推進検討委員会の開催

- ・ 第1回検討委員会 日時：平成25年6月27日（木）午後3時30分～
場所：寒河江市議会臨時庁舎 第2会議室
内容：平成25年度 寒河江市小中学校食育推進事業について
事業取組の趣旨、内容・計画、事業経費（予算）
情報交換
- ・ 第2回検討委員会 日時：平成26年2月27日（木）午後3時～
場所：寒河江市中央公民館 第3研修室
内容：平成25年度 寒河江市小中学校食育推進事業について
具体的な取組状況、成果と課題
意見交換（学校における食育を今後も推進していくために）

② 食指導部会（給食主任会）・学校栄養職員打ち合わせ会の開催

③ 栄養教諭等による先進校視察の実施

- ・ 期日 平成25年11月15日（金）
- ・ 時間・場所 午前9時30分～午前10時15分 豊後高田市立白野小学校
午前10時30分～午後11時15分 豊後高田市立呉崎小学校
午後11時30分～午前3時 豊後高田市立真玉中学校
- ・ 派遣職員 2名 寒河江市立高松小学校 渡邊 浩美 栄養教諭
寒河江市教育委員会学校教育課 川野 博子 管理栄養士

④ 食育関係事業全国連絡協議会への出席

- ・ 期日 平成26年1月31日（金）
- ・ 会場 文部科学省 第2講堂
- ・ 内容 午後1時05分～午後2時25分 事例発表（徳島県・大阪市・愛知県・山形県）
午後2時35分～午後3時30分 協議（「食育の教科書」のような教材の在り方）
午後3時30分～午後3時50分 協議報告
午後3時50分～午後4時10分 講評
午後4時10分～午後5時 事務連絡

4 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

① 年度始めの講演を通じた、食育推進についての教職員の共通理解

年度始めに、市内小中学校すべての教職員と希望する幼児教育・保育機関の教職員等を対象に、食育に関する講話を聞く機会を設けた。早い時期にこのような機会を設けたことで、今年度は組織的に食育を推進していくことができた。また、幼児教育・保育機関の教職員や保育士等にも講演会に参加していただいたことで、幼児期から学童・思春期にかけての食育を共通理解のもとで推進していくことにつながった。

② 朝食摂取に重点を置いた取組の展開

市内すべての小中学生を対象とした、朝食摂取状況や栄養バランス等の調査、生活リズムと関連させた朝食摂取の啓発、おすすめ朝食メニューの募集、リーフレットの作成・配布等、食育を推進していくうえで、本市では、特に「朝食摂取」に重点を置いて取組を展開してきた。一貫性をもたせたことで、テーマからぶれずに取組を展開することができた。

③ 市教育研究所と連携した食育の実践

市教育研究所の「食育に関する研修部会」の中で、栄養教諭による学校給食に関する講話、管理栄養士による食育推進事業の説明、中学校給食センターの見学、食に携わるプロの方による講話を行い、学校給食の役割や食育の重要性を再確認することができた。

また、この部会に所属している先生方が、栄養教諭や学校栄養職員とともに各学校で中核となって、食育の実践を積極的に展開していただいた。部会の中で、それぞれの学校における取組をまとめたレポートを持ち寄って実践を発表し合い、他校の実践にふれることで、自分の学校での実践の幅を広げることや、先生方の実践意欲の向上につながった。

5 各都道府県教育委員会における事業成果の活用について

- ・ 事業成果を会議、研修会、広報媒体等の様々な場、手段を講じて、市町村教育委員会、学校関係者等に広く発信し、他市町村、学校等が取り組む際のモデル事例とする。
- ・ 県教育委員会は、事業の取組内容や成果を指導する際の指導資料として活用し、市町村教育委員会が主体的に取り組むための指導、助言を行う。

6 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

① 朝食摂取率のさらなる向上

朝食を全く食べない児童生徒の割合は小学生よりも中学生のほうが多く、その理由の一つとして、中学校に入って部活動が始まり、生活リズムが変化したことも考えられる。生活リズムと関連させた指導や、朝食の大切さを意識させ、自分で朝食をしっかりと摂る習慣づくりに向けた指導に力を入れていきたい。

また、小学校においても生活リズムと関連させながら、引き続き家庭を巻き込んだ取組をさらに推進していき、朝食摂取率の向上に努めていきたい。

② 栄養バランスの取れた朝食の重要性の認識

朝食の摂取については、摂取率の向上だけでなく、栄養バランスという質の面でも向上することをめざして取組を進めてきた。しかし、作成したリーフレットを有効に活用した取組までは広げることができなかった。

バランスの取れた朝食を毎日摂るには家庭の協力も不可欠である。来年度以降も、児童生徒だけでなく保護者にも朝食の大切さを伝えていくとともに、リーフレットを活用した料理教室の実施など、さらに工夫した取組につなげていきたい。

③ 地元生産者との交流の拡大

食材を前にして生産者の話を直接聞き、生産者の思いや苦勞を感じ取らせることは、食への興味関心を高め、感謝の心を育むことにつながる。現在は、地元生産者との交流給食は中学校でのみ実施しており、小学校では調理従事者との交流給食を行っている。献立との関連も考慮しながら、できるところで地元生産者との交流給食を取り入れ実施することも検討していきたい。

このような課題も踏まえながら、今後も市全体で組織的に取組を進め、来年度以降もさらに食育を推進していきたい。